



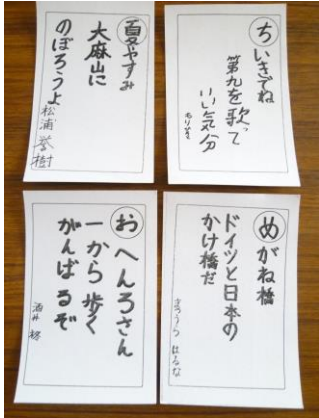



①事業実施報告書詳細

学校名 鳴門市板東小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
2	教室	<p>○「阿波とくしま観光かるた」に親しむ。</p> <p>○すでに知っている地域のよさについて話し合う。</p> <p>○魅力を伝えるためにどんなものをカルタにしたらいいかワークシートに書き込む。</p>		<p>○各児童とも真剣に取り組み、熱心に考え活動していた。</p> <p>○「阿波とくしま観光かるた」から、有名な食べ物も絵札の一つになることを学んだ。</p> <p>○かるた取りを通して、楽しさや親しみやすさを実感し、自分たちの地域のよさを感じるたにして広めていきたいという気持ちが高まった。</p>
10	校外 学校区	<p>○事前に地図を用意しておき、配布する。</p> <p>○前時で思いついた地域のよさを確かめるとともに、新たな地域の良さが発見できるように探検コースを考える。</p> <p>○デジタルカメラで撮影し、かるたの絵札にな</p>		<p>○各自が地域全体に関心を深め、内容についての情報収集や探検を通して、身近な良さを発見することができ、生き生きと活動することができた。</p> <p>○2年生の時の学校近くの町探検を振り返り、学校前の商店街や有名な場所については、すでに説明できていた。</p> <p>○興味がある内容ごとにグループを作</p>

		<p>るように記録しておく。</p> <p>○地域住民との交流を通して、インタビューの方法や丁寧な話し方を学ぶ。</p>	 	<p>り、インタビュー内容を班で考えたり、写真撮影をしたりすることができた。</p> <p>○インタビュー先では、地域の方々から詳しく教えていただき、熱心に話を聞くことができた。</p>
8	教室	<p>○一人二つ担当する頭文字を決め、読み札を考える。</p> <p>○記録した写真の中から、絵札を選び、色塗りをする。</p> <p>○絵札と読み札が一致するように、必要に応じてイラストを付け加える。</p>	  	<p>○五七五の音に合うように、それぞれ思い思いの読み札が完成した。</p> <p>○難しい場合は、友達と相談したり、国語辞典で語彙を付け加えたりすることができた。</p>

10	教室 図書室	<p>○どうしてこのようなかるたを作ったのか、作ったかるたへの思いを各自発表できるように練習する。</p> <p>○かるた大会を開く準備をする。</p> <p>○かるた大会を行い、かるたに親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生で ・6年生と ・保護者や地域住民と 		<p>○自分の担当する地域のよさをしっかりととらえ、自分なりの言葉で発表することができた。</p> <p>○6年生の「こんなよさがあるなんて知らなかった」という発言を聞いて、自分たちが作ったかるたの内容に自信をもつことができた。</p> <p>○保護者も子どもと一緒に楽しんでいかるた取りができた。みんなでかるた大会を楽しめたので、「かるたを作ってよかった」と満足する様子が見られた。</p> <p>○地域の一人としての意識の高揚につながった。</p>
----	-----------	---	---	--

②学習指導案（計画段階の指導案。（修正版でも可））

指導にあたり作成された書類で、下記の項目が含まれているもので構いません。

様式は不問。下記は一例。その他授業実施に作成された資料等添付してください。

学習指導案（計画段階の指導案） <様式不問…例>

単元名 (全 30 時間)	「BANDOUかるた」を作ろう
学習のねらい	<p>○自分の暮らす身近な地域の自然・景観のよいところをかたちづけている要素にはいろいろあることに気づく。</p> <p>○写真や絵、文章などで表現する力を高める。</p>
学習内容	<p>1 「阿波とくしま観光かるた」をやってみて、かるたに親しむ。</p> <p>2 かるたの題材を探しに、地域を探検する。</p>

	<p>3 絵札・読み札を作成する。</p> <p>4 かるた大会を開き、地域のよさを発信する。</p>
参考資料	○見本となるようなかるた（阿波とくしま観光かるた）
準備品	○地域探検用の地図
実施場所等	○デジタルカメラ

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
2	<p><u>かるたに親しみ、どんなかるたにするか考えよう</u></p> <p>○「阿波とくしま観光かるた」に親しむ。</p> <p>○すでに知っている地域のよさについて話し合う。</p> <p>○魅力を伝えるためにどんなものかをかるたにしたらいいかワークシートに書き込む。</p>	<p>○かるたで遊ぶと楽しく地域の良さが伝わることを実感できるように、何度も遊んだ。</p> <p>○「阿波とくしま観光かるた」の内容と、自分たちが考えた地域の良さの内容とを比べ、足りないものを補えるように助言した。</p>	○進んで、かるたに親しんでいる。
10	<p><u>かるたの絵札を作ろう</u></p> <p>○前時で思いついた地域のよさを確かめるとともに、新たな地域の良さが発見できるように探検コースを考える。</p> <p>○デジタルカメラで撮影し、かるたの絵札になるように記録しておく。</p>	<p>○事前に地図を用意しておき、配布する。</p> <p>○2年の生活科や3年の社会科の学習に関連付けて、住み慣れているまちへの関心が高まるように、写真からどんな場所か当てるクイズを導入に使った。</p> <p>○探検している間に、前時で気づいている良さとともに、まだ子どもたちが気づいていない地域の良さを感じられるように、案内したり、疑問を投げかけたりした。</p>	<p>○他教科の学習から分かったことを例に挙げながら、話し合いができる。</p> <p>○地域の良さに気づき、周りの人に伝えようとしている。</p>
8	<p><u>かるたの読み札を作ろう</u></p> <p>○一人二つ担当する頭文字を決め、読み札を考える。</p> <p>○記録した写真の中から、絵札を選び、色塗りをする。</p> <p>○絵札と読み札が一致するように、必要に応じてイラストを付け加える。</p>	<p>○五七五だけではなく、リズムよく読めるように、工夫するよう助言する。読み札の内容を考えるときは、グループで考えてもよいこととし、協力してかるたを完成させる。</p>	○読み札や絵札を友達と協力しながら、完成することができる。

10	<p>かるた発表会を開こう</p> <p>○どうしてこのようなかるたを作ったのか、作ったかるたへの思いを各自発表できるように練習する。</p> <p>○かるた大会を行い、かるたに親しむ。</p>	<p>○かるたへの思いや、作ったかるたの理由を詳しく説明することで、わかりやすく伝えられるように助言する。</p>	<p>○かるたをわかりやすく説明することができる。</p>
----	--	---	-------------------------------

<留意点>

本プログラム実施のための手立て

- 総合的な学習の時間を中心に、社会「まちを知ろう」や国語「かるた」、図工、特別活動と関連付けながら、進める。
- デジタルカメラ等の使用についての指導を行う。
- 話し合い活動や校外学習を通して、マナーや社会ルールなどの指導の場として考える。
- 班での活動によって、友達と協力することの大切さ、お互いの良さを発見し合うことを学び、仲間づくりの場としてとらえる。
- 教師が子どもの興味や関心が高そうな場所を取材し、写真を撮って、紹介することにより子どもへの動機づけが十分に行えるようにする。
- ゲストティーチャーと協力をして、「本物」に触れられるようにする。
- 校内の他学年への周知と協力依頼を行う。
- 学習発表会でのかるた発表を通じ、保護者へ地域のよさを紹介する。子どもたちが作ったかるたに触れてもらうことで、絵札や読み札の工夫や内容から子どもたちの学習内容について理解や共感を広げたい。

③実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

- イメージを膨らませるために、今知っている地域の良さをウェビングマップに表し、その後まち探検に出かけ、地域について調べようとする意欲づけを行った。
- 学級を興味のある内容ごとに4グループ（1班：4人～6人）に分けることで、児童の活動量を確保し、より主体的に活動できるようにした。
- インタビューや見学を通して、地域の良さを実感できるように体験活動を盛り込み、地域との連携を大切にした。

(2) 実施にあたり苦労した点

- 決められた時間の中で完成させなければならなかったため、モノクロ写真に色鉛筆で色塗りをすることで時間の短縮化を図った。この点で、写真選びが難しかったので、苦労した。しかし、色鉛筆で色づけすることで、ぬくもりを感じさせる温かい印象のかるたに仕上げることができた。
- 頭文字と絵札と関連付けて、読み札を完成させることに困難を感じた。困っている子どもには、友達と協力してもいいことを伝え、協力して完成させることができた。できた言葉は、五七五にできるだけ合うものとし、読み札を読む人が読みやすいように工夫した。

(3) 児童の反応

- 全体的に楽しく活動できた。また、自分の撮った写真に自分の作った言葉をあわせできたものを見て「みんなでがんばってよかった」と達成感を感じていた。
- 見本となるかるたで遊んだ時には、1枚も取れずに口惜しがっていた子どもが、自分たちが作ったかるただと何枚も取ることができた。苦労してみんなで作った分、愛着がわいていた。
- 通常のかるたのサイズよりも大きく作ったので、色塗りや地域の良さを伝えるのに適切であった。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

- 校区の良さを再認識することができた。もともと地域資源に恵まれた本校であるが、この素材をいかに教材化するのが、とても勉強になった。
- ゲストティーチャーへの協力をお願いすることを通して、子どもたちに本物と出合わせることの重要性が分かった。地域との連携を通して、より効果的な指導ができた。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

- 自分の住んでいる地域の良さに気づき、地域の良さを発信でき、地域を誇れる子に育ててほしい。そこで、かるた大会を6年生以外とも行うことで、まずは学校の中から「地域の良さ」を発信していく。そして、地域の方や鳴門市へ観光できている方へパンフレットを作成し、案内ができるような実践につなげていきたい。
- 発達段階に合わせた継続的な取り組みが必要である。今年度の引継ぎを行い、来年度も継続して「地域のよさ」を発信できる活動に取り組みたい。